



30年以上にわたってアカウミガメの飼育活動に取り組んでいる御前崎市立御前崎小で26日、ふ化したばかりの子ガメの受け入れ式が開かれ、児童がウミガメ保護監視員から子ガメ30匹を託された。

## アカウミガメ「大切に育てる」

### 御前崎小児童

① おまえざき 御前崎小学校の4年生と5年生が育てるのは何ですか。



子ガメが入った容器を受け取る児童ら—御前崎小

② 生まれたばかりの子ガメを育てて、来年の夏にどうしますか。

**来夏放流 30匹を受け入れ**  
4年生と5年生が参加し、保護監視員から「かわいがかわいがか」と声を掛けられ、子ガメが入った容器を受け取った。代表児童の伊村真子さん（4年）は「今日はカメが来ると聞いてドキドキしていた。海に帰ることができるようになることを願っています。来年は今年よりもたくさん受け入れたいです。」と話していた。海に放流する。今年度は5年生、来年度は今年度の4年生が中心になって飼育する。

大切に育てたい」と意欲を見せ、松林歩輝君（5年）は「小さな命を育てることに責任を持って、一つ一つの事に全力で取り組む」と語った。児童たちは早速、容器の周りに集まって、「小さい」と声を上げながら子ガメをうれしそうに観察した。産卵地を学区に抱える御前崎小は毎年、水温の下がるこの時期に生まれた子ガメを校内のカメ小屋で育て、水温の上がる翌年の夏に海へ放流している。命の大切さを学び、

2013年9月27日朝刊 西部版

③ 子ガメを受け取った子どもたちは、どんなことを思いましたか。記事から書きましょう。

④ 子ガメ（生き物）を育てるときに気をつけることを、考えてみましょう。

年 組 名前

(小学校中学年以上 総合)